

'90年東京工業大学(後期)の入試問題について

やなぎだ いつお
柳田 五夫

1. はじめに

数研通信 No.21「大学入試の背景を探る」、No.22
「'94年入試の良問の背景を探る」で宮川先生は'90年
東京工業大学(後期)の入試問題

① n を 2 以上の整数とする。

(1) $n-1$ 次多項式 $P_n(x)$ と n 次多項式 $Q_n(x)$ で、
すべての実数 θ に対して、

$$\sin(2n\theta) = n \sin(2\theta) P_n(\sin^2 \theta)$$

$$\cos(2n\theta) = Q_n(\sin^2 \theta)$$

を満たすものが存在することを帰納法を用いて示せ。

(2) $k=1, 2, \dots, n-1$ に対して

$$\alpha_k = \left(\sin \frac{k\pi}{2n} \right)^{-2} \text{ とおくと}$$

$P_n(x) = (1 - \alpha_1 x)(1 - \alpha_2 x) \cdots (1 - \alpha_{n-1} x)$
となることを示せ。

(3) $\sum_{k=1}^{n-1} \alpha_k = \frac{2n^2 - 2}{3}$ を示せ。 [90 東京工大]

の背景を探られていますが、 $P_n(x)$ の一般形、そして他の背景についても探ってみたい。

2. $P_n(x)$ の一般形について

$n-1$ 次多項式 $P_n(x)$ を

$P_n(x) = a_0 x^{n-1} + a_1 x^{n-2} + \cdots + a_{n-2} x + a_{n-1}$
の形で表すのは困難であるが、他の形式ならば一般形を求めることができる。

補題 m を自然数とするとき、

$$\cos m\theta = \sum_{r=0}^{\lfloor \frac{m}{2} \rfloor} (-1)^r {}_m C_{2r} \cos^{m-2r} \theta \sin^{2r} \theta \quad \dots \text{①}$$

$$\sin m\theta = \sum_{r=0}^{\lfloor \frac{m-1}{2} \rfloor} (-1)^r {}_m C_{2r+1} \cos^{m-2r-1} \theta \sin^{2r+1} \theta \quad \dots \text{②}$$

[証明] $(\cos \theta + i \sin \theta)^m = \sum_{r=0}^m {}_m C_r \cos^{m-r} \theta i^r \sin^r \theta$
 $= \sum_{r=0}^{\lfloor \frac{m}{2} \rfloor} {}_m C_{2r} \cos^{m-2r} \theta i^{2r} \sin^{2r} \theta$

$$\begin{aligned} &+ \sum_{r=0}^{\lfloor \frac{m-1}{2} \rfloor} {}_m C_{2r+1} \cos^{m-2r-1} \theta i^{2r+1} \sin^{2r+1} \theta \\ &= \sum_{r=0}^{\lfloor \frac{m}{2} \rfloor} (-1)^r {}_m C_{2r} \cos^{m-2r} \theta \sin^{2r} \theta \\ &\quad + i \sum_{r=0}^{\lfloor \frac{m-1}{2} \rfloor} (-1)^r {}_m C_{2r+1} \cos^{m-2r-1} \theta \sin^{2r+1} \theta \end{aligned}$$

一方、 $(\cos \theta + i \sin \theta)^m = \cos m\theta + i \sin m\theta$ となるから、実数部、虚数部を比較して①、②を得る。

②で $m=2n$ のとき

$$\begin{aligned} \sin 2n\theta &= \sum_{r=0}^{n-1} (-1)^r {}_{2n} C_{2r+1} \cos^{2n-2r-1} \theta \sin^{2r+1} \theta \\ &= \cos \theta \sin \theta \sum_{r=0}^{n-1} (-1)^r {}_{2n} C_{2r+1} (\cos^2 \theta)^{n-r-1} (\sin^2 \theta)^r \\ &\quad \dots \text{③} \\ &= \sin 2\theta \cdot \frac{1}{2} \sum_{r=0}^{n-1} (-1)^r {}_{2n} C_{2r+1} (1 - \sin^2 \theta)^{n-r-1} (\sin^2 \theta)^r \\ &= (\sin 2\theta \cdot n \cdot P_n(\sin^2 \theta)) \end{aligned}$$

となるから

$$P_n(x) = \frac{1}{2n} \sum_{r=0}^{n-1} (-1)^r {}_{2n} C_{2r+1} (1-x)^{n-r-1} x^r \quad \dots \text{④}$$

とおくと $P_n(x)$ は $n-1$ 次以下の多項式である。

$P_n(x)$ の x^{n-1} の係数は

$$\begin{aligned} &\frac{1}{2n} \sum_{r=0}^{n-1} (-1)^r {}_{2n} C_{2r+1} (-1)^{n-r-1} \\ &= \frac{(-1)^{n-1}}{2n} \sum_{r=0}^{n-1} {}_{2n} C_{2r+1} = \frac{(-1)^{n-1}}{2n} \cdot \frac{\sum_{k=0}^{2n} {}_{2n} C_k}{2} \\ &= \frac{(-1)^{n-1}}{2n} \cdot \frac{2^{2n}}{2} = \frac{(-4)^{n-1}}{n} \neq 0 \end{aligned}$$

となるから、 $n-1$ 次多項式である。

また、 $\sin(2n\theta) = n \sin(2\theta) P_n(\sin^2 \theta)$ を満たす $n-1$ 次多項式は④以外にはないことが容易に分かる。

同様にして、

$$Q_n(x) = \sum_{r=0}^n (-1)^r {}_{2n} C_{2r} (1-x)^{n-r} x^r \quad \dots \text{⑤}$$

となることが分かる。

[注] $\cos n\theta = T_n(\cos \theta)$ となる多項式 $T_n(x)$ ['94年東北大
学(前期) 6番の $P_n(x)$ ([2]参照)]について

$$\begin{aligned}\cos n\theta &= \sum_{r=0}^{\left[\frac{n}{2}\right]} (-1)^r {}_nC_{2r} \cos^{n-2r} \theta \sin^{2r} \theta \\ &= \sum_{r=0}^{\left[\frac{n}{2}\right]} {}_nC_{2r} (\cos \theta)^{n-2r} (\cos^2 \theta - 1)^r\end{aligned}$$

より $\cos n\theta = T_n(\cos \theta)$ となる多項式

$$T_n(x) = \sum_{r=0}^{\left[\frac{n}{2}\right]} {}_nC_{2r} x^{n-2r} (x^2 - 1)^r$$

はチェビシェフの多項式である。([3]参照)

'90年東京工業大学(後期)の入試問題①の類題が'91年に東京大学で出題されている。

② (1) 自然数 $n=1, 2, 3, \dots$ に対してある多項式 $p_n(x), q_n(x)$ が存在して、

$\sin n\theta = p_n(\tan \theta) \cos^n \theta, \cos n\theta = q_n(\tan \theta) \cos^n \theta$ と書けることを示せ。

(2) このとき、 $n > 1$ ならば次の等式が成立することを証明せよ。

$$p_n'(x) = nq_{n-1}(x), q_n'(x) = -np_{n-1}(x)$$

[91 東京大]

[解説] (1) ②から

$$\begin{aligned}\sin n\theta &= \sum_{r=0}^{\left[\frac{n-1}{2}\right]} (-1)^r {}_nC_{2r+1} \cos^{n-2r-1} \theta \sin^{2r+1} \theta \\ &= \cos^n \theta \sum_{r=0}^{\left[\frac{n-1}{2}\right]} (-1)^r {}_nC_{2r+1} \tan^{2r+1} \theta \\ &= \cos^n \theta p_n(\tan \theta) \\ \cos n\theta &= \sum_{r=0}^{\left[\frac{n}{2}\right]} (-1)^r {}_nC_{2r} \cos^{n-2r} \theta \sin^{2r} \theta \\ &= \cos^n \theta \sum_{r=0}^{\left[\frac{n}{2}\right]} (-1)^r {}_nC_{2r} \tan^{2r} \theta \\ &= \cos^n \theta q_n(\tan \theta)\end{aligned}$$

となる。ただし、

$$\begin{aligned}p_n(x) &= \sum_{r=0}^{\left[\frac{n-1}{2}\right]} (-1)^r {}_nC_{2r+1} x^{2r+1} \\ q_n(x) &= \sum_{r=0}^{\left[\frac{n}{2}\right]} (-1)^r {}_nC_{2r} x^{2r} \quad \text{とする。} \quad \square\end{aligned}$$

② (1) から多項式 $p_n(x), q_n(x)$ が存在して、
 $\sin n\theta = p_n(\tan \theta) \cos^n \theta, \cos n\theta = q_n(\tan \theta) \cos^n \theta$ と書ける。これを用いると

$$\tan n\theta = \frac{\sin n\theta}{\cos n\theta} = \frac{p_n(\tan \theta)}{q_n(\tan \theta)}$$

と表される。この結果は'92年に静岡大学・理(数)で出題されている。

③ 自然数 n に対して、 $\tan x$ の n 倍角の公式を導きたい。そこで $t = \tan x$ とおくとき、 $\tan nx$ は t に関する n 次以下の多項式 $p_n(t)$ と $q_n(t)$ (ただし、

$p_n(0) = 1$) によって、 $\tan nx = \frac{q_n(t)}{p_n(t)}$ と表されることを確かめよう。

$n=1$ のとき、 $\tan x = \frac{t}{1}$ であるから、

$p_1(t) = 1, q_1(t) = t$ であり、 $n=2$ のときは、

$$\tan 2x = \frac{2t}{1-t^2} \text{ より } p_2(t) = 1-t^2, q_2(t) = 2t \text{ である。}$$

これらは二項係数 ${}_nC_k$ を用いて、 $p_1(t) = {}_1C_0$,

$$q_1(t) = {}_1C_1 t, p_2(t) = {}_2C_0 - {}_2C_2 t^2$$

および $q_2(t) = {}_2C_1 t$ と表されることに注意して、次の問いに答えよ。

(1) $n=3, 4, 5$ のとき $p_n(t), q_n(t)$ を求めよ。

(2) 一般の n について $p_n(t), q_n(t)$ の具体的な形を予想し、その正しいことを証明せよ。

[92 静岡大]

次の問題は① (1)の結果からも証明できる。

④ n が正の整数のとき、 $\cos 2n\theta$ は $\sin \theta$ の多項式で表され、 $\sin 2n\theta$ は $\sin \theta$ の多項式に $\cos \theta$ を掛けた形で表されることを示せ。[92 図書館情報大]

①は $\cos mx, \sin mx$ で m が偶数のときであるが、奇数のときは②から

$$\sin(2n-1)x$$

$$\begin{aligned}&= \sum_{r=0}^{n-1} (-1)^r {}_{2n-1}C_{2r+1} \cos^{2n-1-2r-1} x \sin^{2r+1} x \\ &= \sum_{r=0}^{n-1} (-1)^r {}_{2n-1}C_{2r+1} (1-\sin^2 x)^{n-r-1} \sin^{2r+1} x\end{aligned}$$

また、[注]から $\cos(2n-1)x = T_{2n-1}(\cos x)$ となる。この結果は'93年に筑波大学で出題されている。

⑤ n を自然数とするとき、 $\sin(2n-1)x$ は $\sin x$ の多項式で表され、 $\cos(2n-1)x$ は $\cos x$ の多項式で表されることを証明せよ。[93 筑波大]

チェビシェフの多項式 $T_n(x)$ に関する問題は'94年に東北大学、'95年に山梨医科大学、熊本大学で出題されている。チェビシェフの多項式 $g_n(x)$ (定義については[3]参照)に関する問題は'94年に富山医科大学、'95年にお茶の水女子大学で出題されている。

3. $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2}$ の値について

[① (3)の証明] ③から $\sin 2n\theta$

$$\begin{aligned}&= \cos \theta \sin \theta \{{}_{2n}C_1 \cos^{2n-2} \theta - {}_{2n}C_3 \cos^{2n-4} \theta \sin^2 \theta \\ &\quad + \dots + (-1)^{n-1} {}_{2n}C_{2n-1} \sin^{2n-2} \theta\}\end{aligned}$$

4. おわりに

①の類題が'89年に上智大学・理工学部(数・物化)で出題されている。

⑥ (1) i を虚数単位とする。 n を自然数とすると
 $(\cos nx + i \sin nx)(\cos x + i \sin x) = [A] + i[B]$
 となる。したがって、数学的帰納法により
 $\cos nx + i \sin nx = ([C] + i[D])^n$ ($n=1, 2, \dots$)
 が成り立つ。 $n=5$ において二項定理を用いると
 $\sin 5x = [\text{チ}] \cos^4 x \sin x + [\text{ツ}] \cos^2 x \sin^3 x + [\text{テ}] \sin^5 x$
 $= \sin^5 x ([\text{チ}] \cot^4 x + [\text{ツ}] \cot^2 x + [\text{テ}])$
 が得られる。

(2) m を自然数とすると

$\sin(2m+1)x = \sin^{2m+1} x P_m(\cot^2 x)$ となる
 m 次多項式

$P_m(x) = a_0 z^m + a_1 z^{m-1} + \dots + a_{m-1} z + a_m$
 はただ1つ定まる。このとき

$a_0 = [\text{ト}] m + [\text{ナ}], a_1 = \frac{[\text{ニ}]}{[\text{ヌ}]} m^3 + \frac{[\text{ネ}]}{[\text{ノ}]} m$ となる。

(3) (2)の多項式 $P_m(z)$ に対し、方程式 $P_m(z) = 0$ の
 m 個の相違なる根が

$z = \cot^2 \frac{k\pi}{am+b}$, $k=1, 2, \dots, m$ となるように
 自然数 a, b を定める。

$a \geq b > 0$ とすれば $a = [\text{ハ}], b = [\text{ヒ}]$ となる。
 この a, b に対して

$$\sum_{k=1}^m \cot^2 \left(\frac{k\pi}{am+b} \right) = \frac{[\text{フ}]}{[\text{ヘ}]} m^2 + \frac{[\text{ホ}]}{[\text{マ}]} m$$

が成り立つ。

[A]～[B]に対する選択肢

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| ① $\sin x$ | ② $\cos x$ | ③ $\sin(n-1)x$ |
| ④ $\cos(n-1)x$ | ⑤ $\sin nx$ | ⑥ $\cos nx$ |
| ⑦ $\sin(n+1)x$ | ⑧ $\cos(n+1)x$ | |

参考文献

[1] 宮川 幸隆, 大学入試の背景を探る
 数研通信No.21

[2] 宮川 幸隆, '94年入試の良問の背景を探る
 数研通信No.22

[3] 柳田 五夫, チェビシェフの多項式について
 数研通信No.17

[4] 大塚 美紀夫, $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2}$ の値について
 駿台フォーラム第12号

(栃木県立栃木高等学校)